

食糧支援 ニュースレター



World Food Programme

TOPICS

- パキスタンで未曾有の洪水被害 困難なおも続く
- 安藤 宏基 国連 WFP 協会会長に就任
- シーラン WFP 事務局長 日本を訪問
- 富永 愛さん WFP オフィシャルサポーターに就任
- 竹下 景子さん 国連 WFP 協会親善大使に就任
- 知花 くららさん スリランカ訪問
- 私たちの WFP 支援
日清オイリオグループ株式会社
- WFP チャリティ写真展開催報告
- 国連 WFP 協会 寄付実績報告

パキスタンで未曾有の洪水被害 困難なおも続く



©WFP/Rein Skullerud

国土の5分の1が浸水したパキスタン(8月末に撮影)

パキスタンでは7月末からの豪雨で、この80年で最悪と言われる大洪水が発生しました。被害は甚大で、国土の5分の1以上(イタリアの面積に匹敵)が浸水し、国民のおよそ10人に1人にあたる2千万人以上が被災、1千万人が避難を余儀なくされました。

WFPは洪水発生から24時間以内に緊急支援を開始し、8月には300万人、9月には600万人に、小麦粉、植物油や高カロリービスケットなどの食糧を配給しました。さらに、飢餓のまん延を防ぐため、米、豆、塩、お茶、砂糖なども可能な限り追加し、配給食糧の栄養価アップに努めたほか、子どもに対しては栄養価の高いピーナツペーストなどを配りました。

日本政府からは600万ドルが迅速に拠出され、食糧の購入や輸送活動に役立てられました。また、自衛隊のヘリコプ

ター6機が派遣され、WFPの食糧を運ぶなど、WFPと連携し支援活動を行いました。

洪水発生から3カ月がたった10月末時点では、水は引いてきており、WFPの支援は、命をつなぐ緊急支援から復興支援へと移行しています。避難先から自宅へと帰る人には2カ月分の食糧と種のキットが配られ、学校では給食が始まりつつあります。

しかし、大洪水の影響で9月の作付ができなかった農家が多いため、次の収穫期には農作物の減産が懸念されています。食糧危機を未然に防ぐために、WFPは農地や道路、そして灌漑設備などの修繕プロジェクトに参加した人に対し、その労働の対価として食糧を配給する取り組みを行い、復興を後押ししています。

パキスタン洪水支援は来年7月まで

続く予定で、計画通り支援を行うためには6億ドルが必要ですが、10月末までに集まったのは2億ドルで、近々、配給食糧が足りなくなる事態が予想されています。引き続き、皆さまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。



©WFP/Rein Skullerud

日本からの支援で購入された高カロリービスケットを受け取る男性

安藤 宏基 国連 WFP 協会会長に就任



この8月、丹羽宇一郎元国連WFP協会会長の後任として、安藤宏基(日清食品ホールディングス株式会社代表取締役社長・CEO)が国連WFP協会の会長に就任しました。安藤宏基新会長は、食品業界の指導的立場にある経営者として、長年にわたるCSR活動の経験を生かし、国連WFP協会が、民間部門において、飢餓撲滅に向けた支援の輪を一層広げるための活動にまい進します。国連WFP協会会長就任にあたり、安藤は、次のように述

べています。「飢餓は人道的危機であり、世界各国が最優先に取り組むべき課題だと確信しています。食品業界に身を置くものとして、これまでも世界の食糧需要に関心を持ち、緊急災害時などには支援の手を差し伸べて参りましたが、今後は、広く民間のご支援を仰ぎながら、世界の飢餓撲滅に向けて最善を尽くして参ります。どうか皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。」

安藤会長は、11月にはカンボジアを訪れ、学校給食プログラム、母子栄養強化事業、フード・フォー・ワーク(公共的な工事等に参加し働いた人に、給料の代わりに食糧を配給するという形態の食糧支援)の活動現場を視察しました。今後、報告会を開催したり、ホームページなどで視察報告を行ったりする予定です。

シーラン WFP 事務局長 日本を訪問

10月25日から27日まで、ジョゼット・シーランWFP事務局長が、日本とWFPとの連携強化のため、来日しました。

シーラン事務局長は滞在中、仙谷由人内閣官房長官、前原誠司外務大臣、鹿野道彦農林水産大臣への表敬訪問、WFP議員連盟に所属する国会議員との会合、国連WFP協会の安藤宏基会長との懇談、上智大学での講演、日本記者クラブでの記者会見などを行いました。

日本はWFPにとって最大支援国の一つで、去年の日本政府からの拠出額は2億300万ドルで単一国としては第4位、今年は2億1,400万ドルで第3位(11月1日現在)と、ここ10年で最高額を記録しています。また、民間部門からの支援も、増えてきています。日本からの支援により、WFPは過去2年間で世界36カ国に食糧を届けることができました。

シーラン事務局長は滞在中、行く先々で、日本からの支援に深い謝意を述べるとともに、「私たちが生きている間に、飢餓は撲滅することができます」と信念を伝え、飢餓撲滅と

いう共通の目標に向けて今後さらなる連携をはかるための協議を行いました。

また、記者会見では、長い歴史を誇る日本の給食制度は「地域の農家の生産物を使って、子どもたちに栄養価の高い給食を提供している素晴らしいモデル」であり、日本における「地産地消」の取り組みは、他国のお手本になると絶賛しました。

WFPホームページから、シーラン事務局長のメッセージや、記者会見の動画(日本記者クラブYouTubeチャンネル)をご覧ください。 <http://bit.ly/9QlsBU>



©WFP/Shoko Mitani
学校給食プログラムのシンボルである赤いカップを手に記者会見に臨むシーラン事務局長

富永 愛さん WFP オフィシャルサポーターに就任



これまでも国連WFP協会の顧問としてWFPを支援くださっていた富永愛さんが、この度 WFPのオフィシャルサポーターに就任し、『WFPチャリティ写真展 Fill the Cup with Hope ～一杯の給食で、いっぱい希望～』に登場しました。富永さんからは、次のようなコメントが寄せられています。

「WFPオフィシャルサポーターとしての初仕事が、ファッションモデルとして学校給食プログラムを支援するエキシビションで、とても嬉しかったです。世界では多くの子どもたちが飢えに苦しみ、教育の機会すらも奪われているという現状を変えるため、1人の母親としてサポートしたいと思っています。多くの人々に、子どもたちを取り巻く飢えや貧困といった現実を知って欲しいと願っています。これからも、現地視察をし、レポートを行うなど様々な活動を通じて、WFPを支援していきます。」

富永愛さんの今後の活躍にご注目ください。

竹下 景子さん 国連 WFP 協会親善大使に就任



シーランWFP事務局長と竹下景子さん

国連WFP協会は11月1日に、竹下景子さんを、当協会初めての親善大使に任命しました。今回の任命は、飢餓問題の重要性がますます高まるなか、より多くの日本の皆様に、問題の実態を知り、解決に向けたアクションを起こしていただきたいと考え、これまでも顧問として多大な貢献をしていただいた竹下さんに、さらなるご協力をお願いするために行われました。

竹下さんからは、以下のようなメッセージが寄せられています。「食べることは生きることの基本です。それにも拘わらず、いま世界では7人に1人の人が飢

餓で苦しんでいます。世界の全ての人ができる日が増えてほしいと願っています。だからこそ、国連WFP協会の親善大使になる意味があると考えています。」

竹下さんは、飢餓の最前線やWFPの活動現場の視察を含め、メディアや各種イベントを通じた広報活動等を行う予定です。ホームページ(http://www.wfp.or.jp/gallery/ac_video.html)では竹下さんがWFPの学校給食プログラムへの協力を呼びかけているビデオが公開されていますので、是非ご覧ください。

知花 くららさん スリランカ訪問

今夏、WFPオフィシャルサポーターの知花くららさんが、スリランカを訪問しました。

スリランカでは、政府と反政府勢力「タミル・イーラム解放の虎(LTTE)」との間で25年以上にわたって続いた内戦が、去年5月に終わったばかりです。訪問した北部は激しい戦闘が行われた地域で、砲撃の傷跡がそこかしこに残っていました。

最初に訪れたのは、北部キリノッチ地域のピランマル村。およそ600世帯、計2,000人の住民は、元々は北部の別の場所に住んでいましたが、戦闘が激しくなり、キャンプへ避難しました。内戦終了後、元々住んでいた土地に戻ろうとしましたが、地雷の除去が済んでいないなどの理由で戻ることができず、今年の春に、ピランマル村に移住することになりました。

案内してもらった住居は、ビニールシートで仮の屋根をつけただけの簡素なもので、雨漏りがひどく、サソリやヘビが侵入してくることもあるとのこと。電気は通っておらず、飲み水は遠くまで行かないと汲めません。村の中は地雷除去が

済んでいますが、周辺地域はまだ地雷や不発弾が残っているため、農業や牧畜を行うこともできない状況で、住民はWFPが配給する食糧を唯一の生活の糧として命をつないでいました。

WFPはこの村で、月に一回、一日三分の食糧(米、小麦、豆、砂糖、食用油)を配給しています。配給現場では、袋からこぼれてしまった食糧をおじいさんが一粒一粒拾い集める姿が見られ、一粒すら無駄にできない生活の厳しさをあらためて感じさせました。

住民は、内戦で家族を亡くしたり怪我を負ったりしたつらい経験や、生活の大変さを口々に知花さんに訴えました。「今、目の前で話している人たちが、『ある日突然、日常を奪われた』という事実が本当に衝撃的だった」、と知花さん。戦闘が終わっても、一から生活を再建しなければならないという困難な日々が続いています。

翌日は、北部マナー地域のヴァダカンダル学校を訪問しました。内戦中に校舎が爆撃を受け破壊されましたが、内戦終了後に新校舎が完成し、今年2月に再開校した学校です。1~9年生およそ310人がWFPの学校給食を食べながら学んでいます。

この日の給食は、豆のカレー。日本から贈られた缶詰のツナに加え、玉ねぎ、にんじん、にんにく、青唐辛子、ココナッツやスパイス各種が入っている、スリランカならではの給食です。WFPは主に、米、豆、食用油を提供し、野菜やスパイスは、学校が地元からの寄付を受けたり政府の助成金で購入されたりしています。

すすめられ、知花さんも子どもたちと一緒に床に座り、カレーを食べてみました。「本当においしい!」と知花さん。ス



給食の配膳に並ぶ子どもたちと知花さん

パイスがほどよく効いた、味わい深いカレーでした。

知花さんが子どもたちに朝食を食べたかどうか聞くと、クラスの半数ほどが「食べていない」と答えました。学校から家が遠い子は、5キロ以上の道のりを空腹でやってきます。「給食はおいしくて力が出る」「みんなで食べられるから楽しい」と子どもたち。夢を聞くと、一所懸命勉強して、学校の先生や聖職者になりたいなどと答えました。

今回、知花さんは、開発途上国の今を伝え、一人ひとりの国際協力活動を応援する「なんとかしなきゃ!プロジェクト」の著名人メンバーとしてスリランカを訪問しました。同プロジェクトのホームページ(<http://nantokashinakya.jp/>)で、動画を公開中です。

また、知花さんのブログ(<http://chibanakurara.com/blog/archive/201009>)にも、たくさんの写真とともにスリランカ訪問の報告が掲載されています。あわせてご覧ください。



現地女性の話を聞く知花さん

私たちの WFP 支援 日清オイリオグループ株式会社



©日清オイリオグループ

ウォーク・ザ・ワールドに参加した社員や関係者、ご家族の皆さん

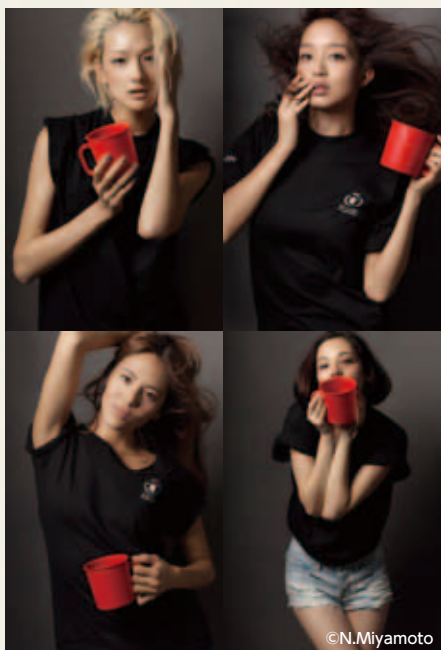
日清オイリオグループ株式会社は、植物油や食品を取り扱う食品企業としてWFPの使命に賛同し、2005年に国連WFP協会の評議員となっており、さまざまな活動を通じてWFPを支援しています。

今年実施されたチャリティイベント「ウォーク・ザ・ワールド」では、社員の参加を呼びかけるため、事前にランチタイムを利用して説明会を開催。イベント当日は、社員や関係者、ご家族あわせて90名が参加したほか、CSR推進室の渡邊淳子さんが年初より「リーダーボランティア」としてイベントに向けた活動に参加し、大会運営を支えました。

本社では、1月に1Fロビーや食堂にてWFPのパネル展示を行い、社員や同社を訪れる外部関係者が、飢餓問題とWFPの活動への理解を高める機会を設けました。また10月には世界食糧デーにあわせ、本社食堂にて1食480円のチャリティーランチを販売し、うち30円がWFPの学校給食一食分として寄付される取り組みも実施しました。

そのほか、主に地域の住民の皆さんを対象として横浜磯子事業場で行われる「横浜磯子春まつり」にて国連WFP協会のブース出展に協力。CSR推進室のメンバーも来場者にWFPへの支援を呼びかけました。夏休みの期間には、工場見学に来た子どもたちに向けて、生徒作文コンクールのパンフレット配布やWFPパネル展示も実施しました。今村隆郎専務は、「今後も引き続き、WFP支援の輪を積極的に広げていきたいと思っています。」と熱く語っています。

WFP チャリティ写真展開催報告 **Fill the Cup with Hope** ～一杯の給食で、いっぱい希望～



©N.Miyamoto

11月23日から28日まで、東京・表参道の「GYRE」にて、「WFPチャリティ写真展 Fill the Cup with Hope～一杯の給食で、いっぱい希望～」が開催され、大勢の方にお越しいただきました。

WFPの学校給食プログラムで食器として使われる赤いカップは、給食がもたらす希望の象徴であり、「わずかな食糧が子どもの人生を大きく変える」というメッセージを伝えています。本写真展では、冨永愛さんや、趣旨に賛同したモデルの皆さんが赤いカップを持ち、子どもの飢餓撲滅の重要性を訴えました。撮影は、写真家・宮本直孝さん。モデルの皆さんや宮本さんを始め、展示スペースを提供していただいた「GYRE」も、無償でチャリティ協力していただきました。その他にも、レタチャーの佐藤加奈子さん・福永剛志さん、デザイナーの杉山正さん、コーディネーターの前野幸子さん、桜井浩さんを始めとする多くのヘアメイク・アーティストの皆様にご協力をいただきました。

開催前から、参加モデルの皆さんのブログや

新聞・情報サイトなどで紹介され話題となっていた本写真展。「好きなモデルが参加している」「チャリティ活動に興味がある」など、きっかけは様々でしたが、一人一人のモデルの皆さんの想いが来場者の共感呼び、多くの方々から、「自分も何か行動を起こさなくてはと感じた」といった声をいただいています。この写真展を通じて、多くの人々に、WFPの活動や飢餓問題の重要性について知っていただけたのではないかと思います。

■参加くださったモデルの皆さん

AKEMI, ikumi, 今宿麻美、浦浜アリサ、伽奈、岸本セシル、清原亜希、熊沢千絵、黒田エイミ、黒田知永子、KOuKA、紗耶、SHIHO、ジュリアナ、SONOMI、竹下玲奈、田中美保、チエルシー舞花、堂珍敦子、冨岡佳子、冨永愛、ノーマ、橋本麗香、春香、平野由実、比留川游、雅姫、松島花、美香、末希、水原希子、道端ジェシカ、宮坂絵美里、宮本りえ、メロディー洋子、矢野末希子、悠美、ヨンア、理衣、LIZA、RINA、Lillian（五十音順）

国連WFP協会 2010年1月～9月寄付実績報告

2010年1月～9月に国連WFP協会に寄せられた企業・団体、個人からのご寄付は、合計で439,501,592円となりました。特に、1月に発生したハイチ大地震の緊急・復興支援活動に対しては、多くの皆様にご支援をいただき、99,688,298円のご寄付が寄せられました。温かいご支援、誠にありがとうございました。

2010年、世界の飢餓人口は、2009年の10億200万人から、9億2,500万人へと減少しました。しかし、この数値は、食糧危機や経済危機以前の数値より高く、依然として、あってはならないほど多くの人が飢餓に苦しむ状況が続いています。こうした中、WFPは皆様の一層のご支援を必要としています。引き続き、皆様のご理解とご支援を賜りますよう、お願いいたします。

なお、皆様からお預かりしたご寄付のうち324,372,683円^{注)}は、既にWFPローマ本部に送金し、各国で行われているWFPのプロジェクトに活用させていただいています。詳しいご寄付の使途とその成果についてはホームページ（www.wfp.org/jp）に随時レポートを掲載いたしますので、是非ご覧ください。

注) 皆様からお預かりしたご寄付の75%以上は国連WFP協会よりWFPローマ本部に送金され、現地における食糧支援活動に充てられています。

なお、ご寄付の25%の範囲内で、国内での募金活動、啓発宣伝費、管理費等の事業経費に充てさせていただきます。

募金にご協力ください

手数料無料振込口座から

三菱東京UFJ銀行

店名：本店(店番001)

口座種別・番号：普通預金 0887110

口座名：トクヒ コクレンWFPキョウカイ

※領収書発行および寄付金指定の際はお手数ですが、国連WFP協会までご連絡ください。

インターネットから

www.wfp.org/jp

24時間受付、クレジットカード募金

携帯電話から

右記のQRコードを読み込んでアクセスしてください。



WFP 国連世界食糧計画日本事務所

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィック横浜6階
www.wfp.org/jp

国連WFP協会

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィック横浜6階
TEL . 0120-496-819 月曜～金曜(祝日を除く)9:30～17:30
FAX . 045-221-2534 www.wfp.org/jp